



## 特別支援教育における魅力ある授業づくり実践編

### 知的障害特別支援学校高等部の作業学習

#### —作業工程を工夫し、主体的な取組を引き出した作業学習の実践—

#### 実践のポイント

紙バンドを使った「ペン立て」を製作し、学習発表会で販売しようと計画した紙工芸課の実践です。

##### ○生徒の実態や目標を踏まえた作業工程・作業内容の分析をしている

材料の準備、底編みや横ひもの製作、組立という工程を分業で行います。それぞれの工程の作業内容を分析し、さらに細かな工程を考え、生徒の実態に応じた作業内容となるよう工夫しています。また、全員で協力して1つの製品を作る分業を取り入れた作業活動は、生徒に自分の役割に対する責任感を高める、製品の受け渡しの際の生徒同士のやり取りの場面を設定できるなどの利点があります。

##### ○生徒の主体的な行動を引き出す

全体をまとめる課長や工程ごとにリーダーが配置され、作業分担、製品のデザイン（配色）変更、進み具合の把握など、作業活動を生徒が主体となって進めるよう学習が展開されています。教師はそのサポート役として機をとらえた支援を心がけています。また、分かりやすく整頓された材料や道具、生徒の特性に合わせた無理のない作業スペース、製品の流れを考えた配置などの学習環境が整えられ、生徒が集中しやすく、全体の様子を見ることもできるよう配慮されています。

#### 授業実践について

高等部では、作業学習の活動年間計画を1月から12月の1年間で立案しています。紙工芸課では、製品作りの工程を分析し、作業工程の大きなまとまりで4つの班をおき、さらに班ごとの工程を作るという工夫をしています。補助具の工夫や環境整備という個に応じた条件を整えた中で、生徒は、自分が任された工程で作業を進め、次の工程へ渡し、仲間と協力して完成品が作られていくことを理解します。役割を意識する責任感、目的に応じて動く積極性、目的や状況に応じて考える効率性といった力を発揮する場を指導計画の中で仕掛け、生徒のもっている力を引き出し高めようと考えています。

1年間の作業学習における最後の単元として計画した実践です。

#### 生徒のあらわれ

- ・活動前のミーティングでは、作業分担を決める際、前回までの作業の進捗状況や欠席者などを考えた意見が生徒から出され、生徒達の意気込みを感じました。全員で今日の作業分担を確認し、各自の目標を日誌に記入することで作業に向かう心構えができていたようでした。
- ・自分の役割(担当する作業)を理解した生徒達は、素早く準備し、作業活動にも集中して取り組む様子が見られました。出来高も最多となり、もっている力が最大限発揮された学習でした。
- ・「相手に伝わる挨拶や返事」を課題としていますが、工程内での製品の受け渡し、検品依頼やその対応の場面で、言い直したり、アドバイスを受けてたりすることで身に付けていました。

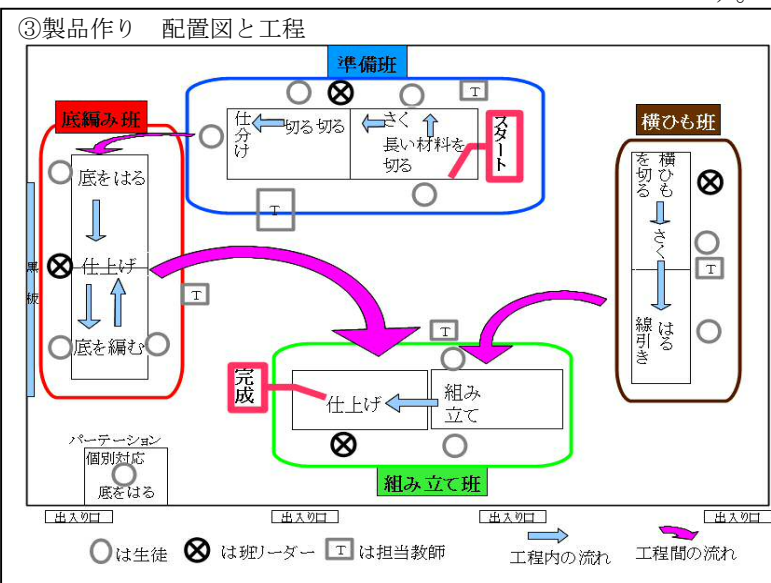
## 指導・支援の実際 単元名「学習発表会に向けて製品を作ろう」

### 授業構想を踏まえた展開と手立て

「自分の目標や役割が分かり、進んで取り組む」「作業の滞りに気付き、相談したり、考えたりできる」「相手や周りの人が分かるように挨拶や返事ができる」という単元目標の達成を目指して、作業工程の分析、分担の工夫、補助具の活用により、「生徒達が自主的にしている作業」を実践しています。

作業課長・副課長は工程表や在庫確認表、出欠席ボードなどミーティングに向けた準備を行い、担当教師と簡単な打合せを済ませます。課長のAさんの進行で、ミーティングが始まります。

<p>①始めのミーティング 司会(課長)</p> <p>分担確認、相談 →課長が配置を発表する 担当する工程に名札を貼る(確認)</p> <p>全体の目標の確認→目標「相手に分かるように伝えよう」</p> <p>個人目標の確認 →日誌に記入する</p>	<p>何か意見などあるか全員に必ず確認する。</p> <p>他の工程作業を担当できるよう時々分担を意図して替えるようにしています。</p> <p>生徒は、今日の作業工程に必要な材料や道具を準備し始めます。補助具の設置も配置写真を手掛かりに自分で進め、作業に取りかかります。道具は工程ごとに色分けされたかごにまとめられ、分かりやすく整えられています。</p>
<p>②準備</p> <p>材料、道具を用意 →倉庫から材料・道具を運ぶ</p>	



作業活動は

- ・準備班…各工程で必要となる材料を準備する。
- ・底編み班…ペン立ての底の部分を上上げる。
- ・横ひも班…側面に必要な横バンドを製作する。
- ・組立班…底と側面を組み立てて仕上げる。

という大きな4工程、さらに各工程ごと、2から4の細分化された工程で進めています。

製品作りの途中で「中間の在庫チェックとリーダーの話し合い」の時間を設定しています。班リーダーは前半の班作業の様子で滞りの状態や応援依頼を教師と相談し、課長に伝えます。課長は、後半の作業に向けて、要請に応じて作業の分担を変更し、工程作業がスムーズに流れるよう調整します。

<p>④片付け、清掃と終わりのミーティング</p> <p>片付け・清掃、日誌記入 →記入した生徒は担当教師に報告し評価を受ける</p> <p>終わりのミーティング →班ごとの出来高や全体の完成数の確認、次回の人員配置を検討</p>	<p>評価をし、またミーティングで班や全体での作業の進み具合や次回の作業について理解や見通しをもちます。</p>
---	--

こうした活動のできる環境を整え、丁寧な活動の見取りと評価により主体的な取り組みを引き出す実践が重ねられています。